



知内川のヤナ

この地域の自然的特性としては、多雪地域であるとともに琵琶湖の幅が最も広い部分に位置することから、季節風による風や波の影響を強く受けることがあげられます。そのため家屋に風除けとなる垣や板戸を用い、湖岸には石積みや築かれるなどの独特の生活景観が形成されています。また、湖辺や内湖（沼）では全国でも珍しい植物や湿地性の稀少植物を見ることが出来ます。さらに、知内川は県内有数のアユおよびビワマスの上流河川で、これらの魚を漁獲

### 厳しい自然が生んだ景観

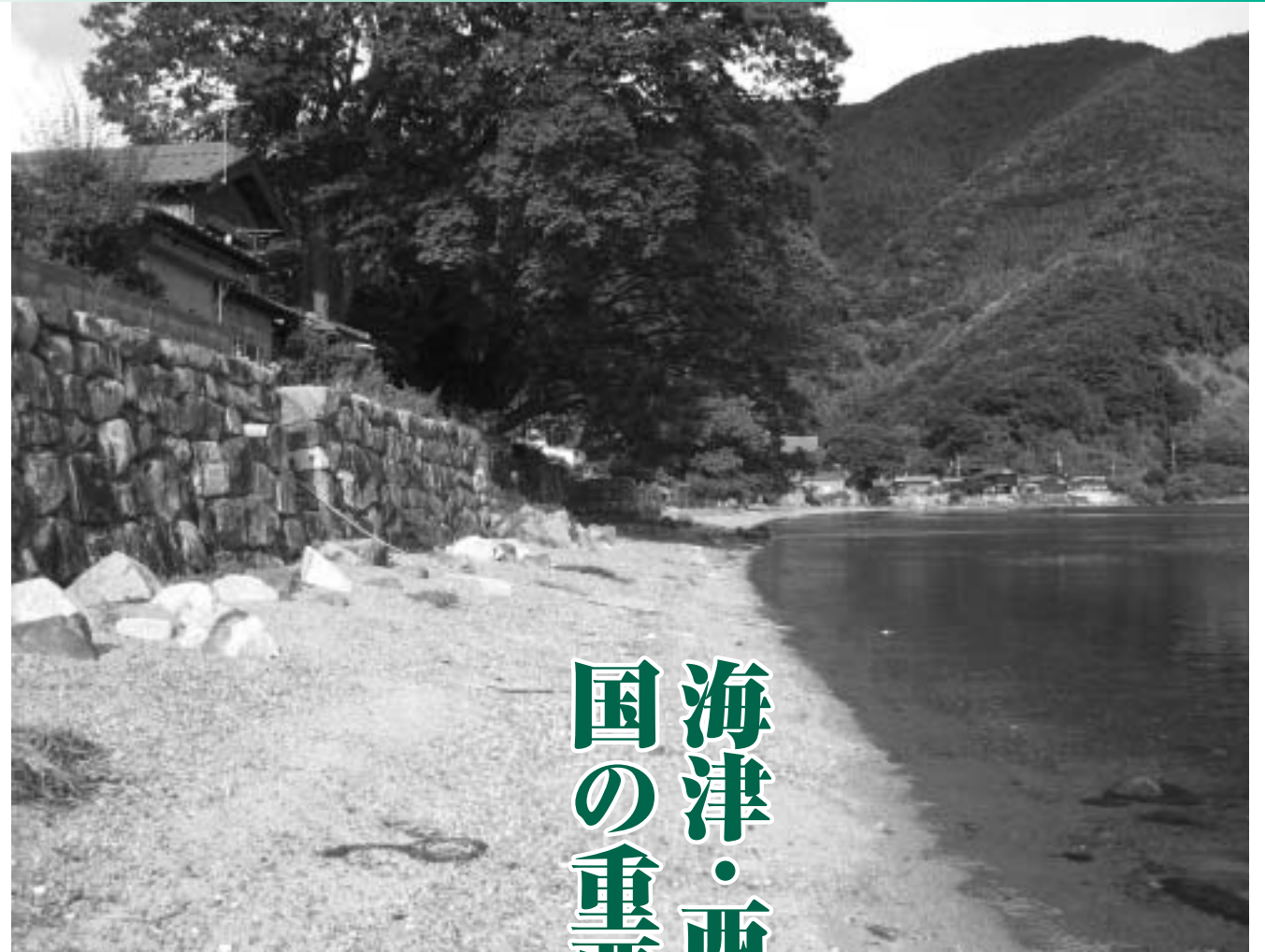
歴史的な特性としては、15世紀以降、日本海から琵琶湖を経て京都に向かう湖上交通網が整備され、特に江戸時代には、宿場・港町として多くの人や荷物が行き交い、交通の要衝として発展したことがあげられます。一方で鮎漁を中心とした漁業の拠点としても発展し、それに伴い、伝統的漁法や水産物の加工業が発達し、現在に至っています。そして、何よりもこの地域の景観を特徴づけている湖岸の石積みは、記録によると17世紀後半にたびたびの大波などで困っていた住民を救おうと地元代官らの尽力で築造されたものであると言われています。

### 歴史が生んだ景観

そのためヤナ漁をはじめとする独特の漁法が発達していることも注目されます。



海津の湧水



海津・西浜に続く石積み

# 海津・西浜・知内の水辺景観 国の重要文化的景観に選定へ

11月16日、国の文化審議会は、「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」を重要文化的景観に選定するように文部科学大臣に答申しました。この選定は全国で5番目、県内では「近江八幡の水郷」に続き2番目となります。同審議会では、琵琶湖をはじめとする河川や内湖の水環境、湖岸の石積み、共同井戸、知内川で続けられている伝統的なヤナ漁の特殊な技法など、多様な水文化が大変貴重であると評価されました。

今回の選定区域は西浅井町との境界の湖岸からマキノ町海津・西浜・知内地区にかけての湖岸周辺と奥田沼や知内川など約1,842ヘクタールで、海津集落の伝統的家屋や漁業組合の旧倉庫などが、景観を構成するために特に重要な要素として位置付けられました。市では、この選定を契機として、すばらしい風景の保全と、重要文化的景観を活かした地域づくりを進めていきたいと考えています。



### 暮らしが つくる景観

学生らによる地元での聞き取り調査では、豊富な水を活用した地域のコミュニティや、琵琶湖とともに生きる独特の生活文化が浮かび上がりました。ただ、この地域はこれまで人々が育んできた伝統的な生活、産業、文化が色濃く伝わる地域でありながら、近年の人口の減少や環境の変化によってこれらの維持が困難になってきています。それらを聞き取り、記録していくことという住民、学生らの動きも活発化しています。

### 景観を活かした 地域づくりへ

重要文化的景観とは、平成17年、文化財保護法の改正によって新しく誕生した文化財の一つで「地域



橋 板



海津漁業協同組合旧倉庫

における人々の生活または生業および当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活または生業の理解のため欠くことのできないものと定められています。具体的には、自然と人々の暮らしが作り上げてきた風景のことで、これまでもには岩手県の中世荘園の景観の残る水田地帯や愛媛県の海岸沿いに続く段畑などが選定されています。また、重要文化的景観の中には、その景観を特徴づける重要な建造物等が定められ、選定後はそれらの保全・活用を目指していきます。

文化財課

☎(3)24467